

企業参入による取組事例 〔徳島県東みよし町〕

1. 地域農業の状況

- 東みよし町は、徳島県の西部に位置し、町の中央を吉野川が流れ、北に阿讃山脈、南に四国山地と急峻な山々に囲まれて豊かな水と緑に恵まれた地域。
- 主な作物としては、平坦部では米麦のほか促成イチゴ等の施設園芸、山間部では、雑穀、ゆず、山菜、施設園芸として夏秋イチゴ、夏秋トマト等を主体とする農業生産を展開している。
- 農業者の高齢化、担い手不足及び農産物価格の下落により、農業全体の従事者及び生産額が減少している。東みよし町の耕作放棄地面積は203ha(2010年世界農林業センサス)となっている。
- 本件の取組が行われた農地は、以前は田や畑であったが、離農に伴って長い間耕作放棄されていた。



耕地面積	2014年	833ha
田耕地面積	2014年	443ha
畑耕地面積	2014年	390ha
総農家数	2010年	1,350戸
自給的農家数	2010年	733戸
販売農家数	2010年	617戸

資料：耕地面積統計、農林業センサス(農林水産省)

2. 取組の概要

取組主体	農事組合法人ドリーム生産組合	地区名	中庄(なかしょう)地区
再生面積	2.5ha(経営面積15ha)	取組年次	平成21年～平成24年
作付作物	水稻、ブロッコリー、大豆等	取組年次	JA及び産直へ出荷

企業の農外参入による耕作放棄地の再生利用

- 町内建設業者の四国開発土木株式会社は、農業従事者の高齢化、後継者不足等により地域の耕作放棄地が拡大するなか地域農業の衰退を阻止し、農業の協働化・共同施設の利用、販路の拡大によって元気な地域、元気な農業の確立を図るため、農事組合法人ドリーム生産組合を設立(平成21年10月)し、農業参入。自社重機を活用し耕作放棄地を再生。その後、平成25年1月に農事組合法人から株式会社に組織変更。
- 平成25年度の経営面積は約15haで、その大部分が高齢者や後継者不足の農家の農地を借地したものである。従業員は、地域内から3名を常時雇用し、4名を臨時雇用。
- 目標経営面積は25ha。規模拡大を図るとともに野菜等の少量多品種化にも取り組み、経営の安定化を目指す予定。



再生作業



再生後の畑



収穫物の販売

活用した支援策

H21～H24 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(土壌改良・営農定着)